Rotary 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

ガバナー月信

vol.06
2021.12

月信 12 月号

① ガバナーメッセージ
② 髙橋年度結団式のご報告
③ 第 1 分区 I Mのご報告
④ ライラ研修のご報告
⑤ 米山記念奨学生学友会総会のご報告
⑥ クラブ近況報告（新発田城南 RC）
⑦ クラブ近況報告（村上岩船 RC）
⑧ クラブ近況報告（佐渡 RC）
⑨ クラブ近況報告（五泉 RC）
⑩ クラブ近況報告（燕 RC）
⑪ クラブ近況報告（栃尾 RC）
⑫ クラブ近況報告（十日町北 RC）
⑬ クラブ近況報告（糸魚川 RC）
⑭ クラブ近況報告（十日町 RC）
⑮ 会員数及び出席報告
⑯ 地区主要行事予定（12 月・2022 年 1 月）
⑰ 新入会員紹介
⑱ コーディネーターニュース
⑲ ハイライトよねやま

国際ロータリー第 2560 地区
2021-22 年度

高尾ガバナー事務所

新潟市中央区川端町 6-53 ホテルオークラ新潟 1F
TEL: 025-222-2561　FAX: 025-222-2565

公式訪問を終えて

国際ロータリー第 2560 地区
2021-22 年度 ガバナー
高尾 茂典（新潟中央 RC）

今年も新潟に白鳥たちが舞い戻ってくる時期となりました。

11 月 25 日を以て、県内全 55 クラブの公式訪問を終了いたしました。これも各クラブの皆様方のご協力とご理解のおかげであり、心より感謝申し上げます。

直接訪問の際には、お出迎えからお見送りまで、皆様からの沢山のおもてなしをいただきました。会長幹事様より事前にお聞かせいただいた内容と、お伺い書・現況報告書を基に、クラブ協議会では今後クラブがどのように進んでいくのか明確な目標等をお聞かせいただき、大変中身の濃い時間を持つことが出来ました。オンライン訪問のクラブにおいては、時間が限られた中で、思うような意見交換が出来ない等の不都合をおかけしましたが、クラブの方針や取り組んでいることの特徴や多くの意見をいただき、大変参考になりました。

55 クラブがそれぞれ歴史を重ね、そして個性有るクラブとして多様性を大切にしていらっしゃる様子は、地区として大変心強く、また誇りに感じております。一方で、浮き彫りになっている課題も多く感じており、地区、ガバナー補佐の皆さんからのお力添えをいただきながら、取り組んで参りたいと思っておりますので、皆様方のご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

各クラブのこれからの益々のご発展と、ロータリアンの皆様のご活躍を祈念して、感謝の詞、そして公式訪問の御礼とさせていただきます。

「髙橋秀樹ガバナー年度 結団式」のご報告

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 地区筆頭副幹事
佐藤 邦栄（新潟 RC）

2021 年 10 月 22 日、ホテルイタリア軒で髙橋秀樹ガバナー年度の結団式が執り行われました。COVID-19 感染防止に配慮し、懇親会を開催せず、短時間にて実施しましたが、高尾ガバナーや多くのパストガバナーを始め、多くの参加者に見守られながら、髙橋年度の船出を飾ることができました。冒頭、髙橋ガバナーエレクトより、例年 9 月に開催されていた開所式ではなく、10 月に結団式として開催した経緯が説明されました。「物事はなるべく簡素に行い、できるだけ本質的な部分だけに絞るというのが、ガバナー輩出を引き受けた時の新潟クラブの伝統。その理由は、際限なく様々な催事を増やして華やかに行っていると、1 つのクラブで背負うことがどんどん苦しくなる。だからこそ、2560 地区の中に一つくらいは敢えて地味に抑制が効いた地区運営を志すクラブがあっても良い」との新潟クラブの伝統があることから、一旦は、開所式の開催を見送ったが、この COVID-19 で、社会・経済のあらゆるところで、自粛が必要となり、様々な慣例が中止になったり、オンラインで済ませたりすることがあまりにも多い状況の中、「このまま何となく始まって、いつの間にか気づいたら終わっている、というのは嫌だなあ。何かケジメになることをしてほしいなあ」という声が各所から聞こえ、そうであるならば、こういう状況だからこそ、許される範囲内で敢えて開所式を行い、こんな状況でもロータリーはへこたれない、ということを示すのも一考に値するのではと思い返し、時期的にも開所式ではなく「結団式」と改め、開催がなされたとのお話がありました。高尾ガバナーやパストガバナーから、温かい数多くの激励の言葉を賜ることができ、実施して本当に良かったと感じるとともに、改めて、今の辛い時期を乗り越えて、これからの 2560 地区の新たな発展に努めていくべく、髙橋ガバナースタッフ全員で決意を固める良き日となりました。

第 1 分区 IM を終えて

IM テーマ　出逢い－意義あるロータリー活動を求めて

国際ロータリー第 2560 地区
2021-22 年度 第 1 分区ガバナー補佐
羽田 庄一（水原 RC）

2021-22 年度国際ロータリー第 2560 地区第 1 分区インターシティーミーティングを、10 月 23 日に阿賀野市保田の亀田屋で開催致しました。

多くの来賓の方々からご出席の上、ご挨拶いただきありがとうございました。1 年前から会場を決め、7 回の実行委員会を重ね、協議して参りました。COVID-19 禍のなかでも、延期も中止もせず、その時の感染状況により、いくつかの開催方法を考え準備してきました。そして、会場参加者と、その他の全会員には WEB 配信する、ハイブリッド方式で開催することとし、会場参加者については感染状況により判断することにしました。

基調講演では、2019-2022 第 1 地域コーディネーターの菅原裕典（仙台泉 RC）様から、「戦略計画委員会と会員増強委員会の必要性～自分のクラブを一言で表現できますか？」と題し、講演いただきました。今ロータリーには、変革性・柔軟性・多様性が求められています。クラブの現状を評価し、3 つの視点から考えるべきではないでしょうか。

9 月中頃から感染が減少し、会場参加者は 50 名に制限致しましたが、感染対策を徹底し懇親会は開催することにしました。懇親会アトラクションでは、水原ロータリークラブ会員の旦飯野神社宮司からご利益のある「鯛釣り舞」を披露していただきました。各クラブ会長幹事には初めての懇親会であり、親睦を深めることができたと思います。

山﨑パストガバナーの講評では、身に余るお褒めの言葉をいただきました。実行委員長、実行委員会そして、水原ロータリークラブ会員の皆様には感謝しかありません。

ライラ研修の御報告並びに御礼

国際ロータリー第 2560 地区
2021-22 年度 青少年奉仕委員会
ライラ委員長
橋本 英俊（栃尾 RC）

去る 10 月 17 日（日）「ライラ研修」を無事実施することができました。

2021-22 年度のライラ研修は、昨年よりの計画段階では、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、研修の日程を 1 日完結型にして、会場の定員を 50%にするなど、十分な感染予防対策をとりリスクを回避すると共に、1 年たつ頃には感染状況が収まっていくことを期待し、ホストである栃尾ロータリークラブの地元で、皆様をお迎えして開催する予定でございました。

しかしながら、予定していた会場が、ワクチンの接種会場となり、急遽別会場を手配するなど、計画を進めて行く中で、感染状況が改善されず、逆に変異種などの出現で拡大する状況があり、会議を重ねる中で、一堂に会するリスクを回避し、全面リモートの形で実施することとなりました。

研修生同士やロータリアンとの交流等の要素は実現できませんでしたが、「新しい生活様式での人間関係を考える」という研修のテーマについては、ぶれずに実施できたのではと思っております。

当日、運営会場では、青少年奉仕委員長・副委員長はじめライラ研修実行委員など 10 名前後のメンバーで運営させて頂きましたが、研修を実施運営する側にとっても新しい形への挑戦という側面もあり、大きな勉強をさせて頂いたと感じています。また、新しい試みにもかかわらず、当日の登録は 80 名を超え、多くのメンバー及び研修生に御参加頂きましたこと、大変ありがたく感謝申し上げます。

今後、お寄せ頂いた感想などを参考に此度の研修の報告書を作成し、研修生の皆様には終了証の交付をさせて頂く予定でございます。

「米山記念奨学生学友会総会」を終えて

国際ロータリー第 2560 地区
2021-22 年度 米山記念奨学委員会
奨学生学友委員長
鈴木 公子（柏崎中央 RC）

11 月 13 日土曜日に学友会総会を開催しました。

2021-22 年度の米山記念奨学生にとっては、全員で会場に集まったのは初めて。主催者側としても、COVID-19 の影響を考え、学生を危険にさらさないように考慮し、大学側の学生への対応にも注意を払いながらのリアルの会となりました。

当初、奨学生たちは不安もあるだろうから、出席者はほんの数人になるだろうと予想し、ハイブリット対応を計画しました。しかし、予想に反して多くの学生が出席を申し込んでくれて、驚きの 8 割くらいの申し込みがありました。

当日は、続々と奨学生が集まり始め、みんな嬉しそうに挨拶や会話をしていました。何しろ、リモートの懇親会ばかりで、顔は知っていても初めての対面の方が多かったのですから、それは嬉しいはずです。

学友会総会では、バロリ・ブレンディ米山学友会副会長の開会の挨拶から始まり、ガバナーエレクト・ロータリー学友会会長髙橋秀樹様のご挨拶、米山記念奨学委員会中町圭介委員長挨拶、学友会の報告、センシュウケン学友会監事の閉会の挨拶で無事終了。

その後、親睦会では、私からの「米山の学友会に加入することがどれほど素晴らしい事であるか。卒業したら必ず学友会に入会して、世話クラブやカウンセラーへの連絡を絶たないようにしてほしい。」というメッセージを伝え、乾杯は、浅妻信地区幹事。その後、万全なコロナ対策の中、ホテルオークラの美味しいお料理や飲み物を堪能。アトラクションでは、渡邊嘉子米山奨学副委員長と野澤修選考委員長の司会でクイズ大会。景品は、ご参加いただいたロータリアンの寄付で、奨学生たちは大盛り上がり。この場を借りて御礼を申し上げます。

楽しく盛り上がった時間もあっという間に終わり、中締めには、ファンウエンウィー学友会幹事からご挨拶をいただき無事終了。

ドキドキで開催をした総会でしたが、終わってみれば、やはりリアルな親睦は良いものでした。

クラブの近況報告

新発田城南ロータリークラブ
幹事　羽賀 直樹

新発田城南ロータリークラブでは、7 月の新年度がスタートした当初から通常例会を行うことが出来ず、しばらくの間 Web 例会にて開催しておりました。9 月 16 日に新潟県の特別警報も解除されたことで、9 月 30 日から対面での短縮例会に切り替えて例会を行っております。

11 月からは、通常例会にて卓話講師をお呼びして開催しております。COVID-19 感染対策をしっかりと行いながら、和気あいあいと例会を楽しんでもらえたらと願っております。

コロナ禍の影響で何も出来ず、4 か月経過しましたが、来春に向けて会員間の理解・親睦・連携を深めることにより次の活動を行う予定にしております。

1　歌碑建立
2　城南庵のプランター整備
3　一人暮らしの高齢者を対象とした花の贈呈
4　新発田城表門の美化活動
5　ロータリー奉仕デー海岸河川美化プロジェクト参加

以上 5 点を新発田城南ロータリークラブの最重要課題と位置付けて、ワンチームとして取り組んでいきたいと思います。

クラブの近況報告

村上岩船ロータリークラブ
会長　貝沼 栄司

今年度は、コロナ禍での例会の開催方法、事業活動について、会員皆さんの健康を第一に考え、臨機応変により良い変化を意識して活動をしていきたいと思いスタートしました。

例会では、感染拡大の防止に努め、短縮例会を行ったり、仕切板を購入して設置しました。また、夜間例会はまだ開催しておらず、少ない時間で会員同士の親睦の深め方にも工夫が必要と考えています。

青少年奉仕として、小学生野球大会は毎年継続している事業でしたが、昨年はやむなく開催できませんでした。今年は何とか開催してあげたいという思いが強く、開会式を行わないなど様々な感染予防対策を徹底して、無事開催することができました。

社会奉仕活動では、コロナ禍で仕事を失った人や収入が減って食料品を必要とされている世帯への支援はできないものかと協議し、地元のフードバンク 2 団体に協力支援することに決め、今年度は 9 月に実施し、そしてお正月を迎える 12 月末に支援することに決め活動を行っています。

COVID-19 禍での奉仕活動

佐渡ロータリークラブ
会長　山口 正明

昨年来、生活を変えた COVID-19 禍については、第 5 波が収束しつつあり、まだ一部ではありますが落ち着きを取り戻しつつあるように感じます。この間、佐渡市では大きな感染拡大には至らず過ごすことができました。

しかしながら、他の地域同様に様々な市内の行事が中止となり、当クラブでも昨年は 50 周年記念式典が中止となってしまいました。

そのような中にあって、当クラブでは、会員それぞれが感染対策に努め、例会は全国的な感染拡大前と同じ形態で開催してきました。本年 2 月に COVID-19 禍での活動状況を本誌でご報告して以降は、例年通りの活動を実施しています。

3 月下旬には、2 年ぶりとなる佐渡ロータリー杯フットサル大会が開催されました。参加チームが市内チームに限定され、開催日も短縮されましたが、大会が開催されたことは喜ばしく、継続することの大切さを感じました。

また、6 月には加茂湖畔の桜並木の整備活動も行いました。当日は天候にも恵まれ、初夏の気持ちいい雰囲気の中で汗を流しました。

すべてが以前の通りにできるという状況ではありませんが、地区役員の方々には Web 等を通じて、引き続きご支援していただいていることに対しまして感謝申し上げます。

まだ気を緩めることはできませんが、徐々に活動の制限がなくなりつつあります。今後、「ニュー・ノーマル」なやり方も定着し、他クラブとの交流が復活することを楽しみにしています。

五泉 RC 近況報告

五泉ロータリークラブ
会長　石本 保男

新型コロナの感染拡大により、「ニュー・ノーマル」と言う言葉が生まれるほど、経済活動を含む社会生活は大きな制約・変化を余儀なくされており、ロータリークラブの活動も例外ではありません。五泉 RC では、会員の高齢化等によるクラブ存続懸念の顕在化という問題を抱えながらも、会員相互の親睦と友情を深める機会としての昼例会開催および奉仕活動としての市内公園の早朝清掃を軸としたクラブ活動を継続しています。

新型コロナの感染拡大時には、「3 密」・「感染リスクが高まる 5 つの場面」を回避するための方策として、昼例会の開催頻度を月 2 回にするなどの対策を講じましたが、現在は、コミュニケーションの基本は「Face-To-Face」とする考えに立ち返り、例会の開催頻度を月 4 回に戻して、会員相互の親睦を図るとともに、コミュニケーションの維持・深化に努めています。一方で、会員所属企業のコロナ対策にも配慮して、食事を折詰弁当（持ち帰り可）へ変更したうえで、出欠フリーの食事時間帯を設けるなど、会員の選択肢を増やす工夫も実施しています。新型コロナ発生以前に実施していた、会員各位の職場訪問および講師を招いての卓話も、現在は控えざるを得ず、思うような活動ができないことに忸怩たる思いを禁じ得ない日々が続きます。然しながら、このような状況下におきましても、当クラブが主催する「第 42 回五泉ロータリー杯少年野球大会」を、無事に開催することができましたことは、当クラブの大きな喜びであり、誇りとするところです。改めて、開催に向けてご尽力いただいた関係各位に心よりの御礼と感謝を申し上げます。

ロータリーの友（令和 3 年 8 月号）に「地区別クラブ数・会員数一覧表」が掲載されておりました。2021 年 5 月現在の会員数は、2020 年 5 月と比べて 2,384 名の減少とのことです。

当クラブでも今年 3 月に、長年にわたり五泉 RC を支えていただいた坂上洋司さん（昭和 51(1976) 年 1 月 19 日入会）の逝去と言う悲しい訃報に接しました。6 か月を経過した現在でも、重鎮を失った喪失感･寂寥感を拭うことができず、歴史の大きな転換点を迎えていることを痛切に肌で感じています。重要課題を抱えながらではありますが、今年度の会長として「奉仕しよう　みんなの人生を豊かにするために」「ロータリーを学び　ロータリーを広げよう」の実践・実現の場となることを目指して、微力ながらもクラブ運営に力を尽くしたいと存じます。

クラブ近況報告

燕ロータリークラブ
会長　竹越 孝行

今年度も、昨年度に引き続き、コロナ禍真っ只中での活動開始となりました。昨年度は、例会も中止にするなど活動に多大な影響も出ましたが、今年度においては、例会は中止することなく開催しております。但し、奉仕事業においては、中止・延期・内容の変更を余儀なくされているのが実情です。毎年夏に行っている障がい者施設との交流会は、直接の交流はできずアイスの寄贈のみになってしまい、各種少年スポーツ大会も延期が相次ぎました。

ただ、最近になってコロナが落ち着いてきたこともあり、延期していたサッカー大会やバドミントン大会の開催が決まり、大変うれしく思っているところです。

コロナ禍で従来の奉仕活動がやりにくくなっている中、当クラブでは本年設立された NPO 法人フードバンクつばめの活動にどのようにかかわっていけるか、どんな支援が必要なのかをただいま勉強しています。これからも新しい奉仕活動に積極的に取り組んでいこうと思っています。

今後は、活動の基本となる会員の増強を積極的に行い 3 ～ 5 名程度の新規入会を目指します。仲間が増えることで活動の幅も広がっていき、良いアイデアも生まれるのではと期待しております。

クラブの近況報告

栃尾ロータリークラブ
会長　齋藤 和雄

栃尾ロータリークラブでは、10 月まで昨年度から継続して、マスクの着用、手先の消毒、体温チェック等の COVID-19 感染防止対策を徹底し実施しながら、卓話をなくし、食事もお弁当持ち帰りの時間短縮で例会を行っていましたが、10 月 15 日の新潟県の警報解除をきっかけに 11 月の例会から通常通り行っています。

奉仕活動としては、毎年 12 月に NPO 法人キッズサポートつむぎ様にクリスマスケーキをプレゼントしたり、クリスマス例会にご家族を招いていますが、今年も例年通り行う予定でいます。6 月 18 日開催の第 2560 地区ロータリー奉仕デーにも実行委員を中心に積極的に参加致します。

昨年から続く COVID-19 の影響で奉仕活動等が思い通りにならないことから、今年度は会員増強を重点的に考えていましたが、今現在、大変苦戦しています。会員増強委員長を中心に、今年度目標としている新入会員数達成に向けて、これからも継続してクラブ会員全員で取り組んで行こうと思います。

10 月 17 日に地区行事でありますライラ研修をホストクラブとして務めさせて頂きました。本来であれば栃尾の地に皆さんをお迎えしての開催としたかったのですが、残念ながらオンライン形式での開催と決断させて頂きました。そのような中、沢山のロータリアンの皆さんや研修生に参加して頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

今現在 COVID-19 禍も大分落ち着いている状況ではありますが、まだ以前のようにというわけにはいきません。今年度もあと 7 か月と折り返し間近となってまいりました。今出来ることを一つ一つメンバー全員一丸となって重点目標の進展に努めてまいりたいと思います。

クラブの近況報告

「中１ギャップ」と小中交流野球大会

十日町北ロータリークラブ
会長　小林　均

毎年恒例の十日町北ロータリー杯「十日町市・中魚沼郡 6・1 交流野球大会」が 11 月 3 日に開催された。

「今日社会問題化している『中 1 ギャップ *』解消を目的に、中学校 1 年生と小学校 6 年生球児の交流を目的とした野球大会であり、学童野球の 6 年生と中学校野球部の生徒、指導者、保護者が同じチームでプレーすることで、中学校の部活のやり方や礼儀、コミュニケーションの取り方など中学校生活のイメージを具体的に体感してもらう。また、中学生は下級生への思いやりや野球を続けた思いを伝えるなど、上級生であることの自覚形成に役立てよう。」という趣旨のもと大会を開催している。

クラブ主催の発端は、ロータリアンの子どもが所属している野球部の監督の「少年野球をやっていた子どもが中学校に来ても野球を続けてくれたらいいな」という声を反映させる大会を実現したいとの思いからで、教諭や指導者、保護者から感謝の声が寄せられている。一般の大会とは違い、一日を通して全員が必ず試合に出る、可能な限り小学生の出番が多くなるように、投球はストレートのみ、カウントは 1 ストライクからなど小学生に配慮し、また一方で、試合は 7 回（小学生は通常 5 回）、ボールは中学校規格の M ボールなど、中学生との違いを体験してもらうなど勝敗より交流を目的に工夫したルールで行っている。

国際社会に目を向けながら、足元の地域にも目を逸らさない活動こそ地域のロータリークラブであってこそ、市民に存在を認められる国際クラブでありたいと思う。

※ 中 1 ギャップとは、小学校を卒業して中学校へ進学した際、小学校生活とは異なる新しい環境や生活スタイルなどになじめず、授業についていけなくなったり、不登校やいじめが起こったりする現象のこと。

クラブの近況報告

糸魚川ロータリークラブ
会長　田邉 榮三

COVID-19 感染拡大の中、今年度活動を開始いたしましたが、10 月を迎えワクチン効果なのか、ようやく感染者数の大幅な減少となりました。その間、社会生活に大きな影響を受け、ロータリークラブの運営についても密になっての集合、会食を避け、社会の規範たる立場を意識し、活動の制約、例会の運営等にコロナ禍での活動を模索してまいりました。

このような時にこそ、ロータリークラブは社会に奉仕して何か活動できることはないかを検討し、これからの地域社会を考え、ソーシャルディスタンスを保ちながら取り組んだ環境問題 2 件につきまして紹介いたします。

（1）7 月 22 日、海の日「マリンフレンズ・プロジェクト」クリーン作戦海岸清掃奉仕に協力。

「我等が誇るヒスイ海岸の清掃に早朝から会員 11 名、会員企業糸魚川信用組合職員 70 名総勢 81 名による海岸清掃を 2 か所で行いました。あまりにも多くのプラスチックごみの漂流の多さに驚きながら 2 t トラック 1 台満載の集荷を行い、夏の海水浴シーズンを迎えることができました。

（2）10 月 16 日、社会奉仕事業、長者ヶ原遺跡公園内「縄文の森　秋季草刈り整備作業」、ロータリー財団地区補助金プロジェクト「長者ヶ原遺跡公園内山桜の苗木植樹」の実施。

本事業は 2002 年に縄文の森植樹を開始し、その整備として毎年春、秋年 2 回の草刈りをしていますが、今回は、地区ロータリー財団補助金委員会委員の高坂さんの参加を得、会員 18 名と 2 時間の作業を実施しました。

また、今年度は、ロータリー財団の補助金にて新たに山桜 7 本の植樹を実施しました。本来多くの子供たちの参加を希望しましたが、コロナ禍の中での事業であり、残念ながらかなわず、公園の活用を積極的に進めている美山プロジェクトの皆様が完成を目指しているウッドデッキのお披露目と合わせ、50 名の参加で山桜 7 本の植栽を終えました。

来春からの桜の咲く季節を楽しみに木々の成長とともに公園に多くの市民が集まり、活用されることを願っています。

7 月 22 日 「海の日海岸清掃」

10 月 16 日　ロータリー財団補助金事業「公園整備と山桜の植樹」

「竹所集落」に職場訪問に行ってきました

十日町ロータリークラブ
会長　葉葺 利男

令和 3 年 10 月 28 日（木曜日）にメンバーのカールベンクス君のお膝元、十日町松代町「竹所集落」の見学に行ってきました。

建築デザイナーであるドイツ人のカールベンクス君は、日本の民家が持つ価値を「宝石」と呼び、古民家が焼失することは地域のアイデンティティの喪失であると言っています。「古民家は、宝石の原石です。磨けば、光り輝きます」と言うとおり、竹所集落の村おこしにも一役買われました。また、国からも日本の伝統的建築文化の維持や、過疎で衰退した村を復活させたことが評価され、夫妻で 2016 年「ふるさとづくり大賞（内閣総理大臣賞）」を受賞されました。

今回の場訪問の開催にあたり、快くお引き受け頂き、懇親会も「古民家レストラン　澁い」にて感染対策を講じて行いました。コロナ禍の例会運営は、なかなか思うようには行かなく苦労しているのが現状です。十日町クラブでも、なんとか休会はせずに短縮例会、弁当持ち帰りで継続している状況です。そのような中でも、当日は職業奉仕委員長の吉澤君の段取りでバスを貸し切り、大勢の人数で参加できました。懇親会では、久しぶりにメンバーが懇親を深めることが出来ました。カールベンクス君本人は、当日急な出張で参加できなかったのですが、代わりに竹所の五十嵐さんが、集落の説明、案内をしてくれました。1 キロくらいを、歩いて集落を回り景観を楽しみました。その後「澁い」にてベンクス君の計らいで、ピアニスト川村祥子さん演奏のミニコンサートを聞き、ドイツビール、ドイツ料理で楽しく懇親会のひとときを過ごしました。10 月に入り COVID－19 の感染が収束している時期の開催でしたので、久しぶりに懇親を深められました。（令和 3 年 10 月 29 日現在）。

第2560地区　2021-22年度10月末　会員数および出席報告

R C	例会数	My Rotary アカウント登録率	会員数 2021年7月1日	10月末会員数	うち女性	増減
第1分区(9クラブ)		−	372	380	33	8
新発田	1	28.0%	93	91	0	−2
村上	4	17.9%	38	39	9	1
水原	3	21.9%	32	32	1	0
中条	4	84.1%	41	44	3	3
新発田城南	4	17.5%	40	40	3	0
豊栄	4	13.0%	20	23	2	3
新発田中央	4	4.3%	44	47	4	3
中条胎内	4	52.8%	36	36	6	0
村上岩船	4	25.0%	28	28	5	0
第2分区(9クラブ)		−	433	449	25	16
新潟	4	23.0%	82	87	2	5
新潟東	2	16.7%	62	66	8	4
新潟南	4	32.1%	105	108	3	3
佐渡	1	100.0%	6	6	0	0
新潟西	4	50.0%	39	40	2	1
佐渡南	3	12.2%	40	41	4	1
新潟北	2	28.9%	37	38	0	1
新潟中央	2	38.1%	21	21	0	0
新潟万代	5	52.4%	41	42	6	1
第3分区(6クラブ)		−	97	99	5	2
新津	3	11.8%	17	17	1	0
村松	4	66.7%	12	12	0	0
五泉	4	0.0%	11	11	1	0
白根	4	30.0%	29	30	1	1
新津中央	4	30.4%	22	23	2	1
阿賀野川ライン	4	0.0%	6	6	0	0
第4分区(11クラブ)		−	366	367	27	1
三条	4	12.1%	56	57	0	1
燕	4	6.1%	34	33	3	−1
加茂	4	8.8%	33	34	6	1
三条南	4	13.6%	44	44	2	0
分水	4	79.3%	29	29	4	0
見附	4	4.8%	21	21	1	0
吉田	3	6.5%	28	31	3	3
三条北	4	5.2%	58	58	2	0
巻	3	0.0%	25	22	2	−3
田上あじさい	5	14.3%	7	6	1	−1
三条東	4	6.3%	31	32	3	1

R C	例会数	My Rotary アカウント登録率	会員数 2021年7月1日	10月末会員数	うち女性	増減
第5分区(7クラブ)		−	296	301	25	5
長岡	4	80.0%	45	45	3	0
柏崎	3	2.4%	41	41	0	0
長岡東	3	27.8%	52	54	3	2
柏崎東	2	17.4%	45	46	3	1
栃尾	4	12.0%	25	25	0	0
長岡西	3	19.6%	50	51	4	1
柏崎中央	3	23.1%	38	39	12	1
第6分区(6クラブ)		−	122	124	10	2
十日町	3	28.1%	32	32	4	0
小千谷	4	10.7%	30	28	3	−2
雪国魚沼	4	20.8%	20	24	2	4
十日町北	3	0.0%	18	18	0	0
津南	4	18.8%	16	16	1	0
越後魚沼	3	16.7%	6	6	0	0
第7分区(7クラブ)		−	312	317	23	5
高田	4	31.5%	72	73	5	1
直江津	4	31.9%	69	69	6	0
新井妙高	4	12.1%	31	33	1	2
糸魚川	3	72.1%	41	43	3	2
高田東	4	63.9%	36	36	3	0
糸魚川中央	5	50.0%	28	28	0	0
越後春日山	4	100.0%	35	35	5	0

クラブ数	55	クラブ
7月1日　会員数	1,998	人
10月末 会員数	2,037	人
女性会員数	148	人
純増減会員数	39	人
My Rotaryアカウント登録率	28.2	%

地区主要行事予定

2021年11月27日現在

年	月	日		行　事	会　場
2021年(R3)高尾年度	12月	疾病予防と治療月間			
		5	(日)	ロータリー財団地域セミナー	JPタワー ホール＆カンファレンス
		6	(月)	第2回ガバナー会議	ホテルオークラ東京
		6	(月)	RI会長歓迎晩餐会	ホテルオークラ東京
		6	(月)	メジャードナー午餐会	ホテルオークラ東京
		6	(月)	第2回ガバナーエレクト研修セミナー(GETS)、ガバナーノミニー研修セミナー(GNTS)	JPタワー ホール＆カンファレンス
		7～8	(火～水)	第50回ロータリー研究会	メルパルクホール
		12	(日)	全国青少年交換委員長・危機管理委員長 合同会議	AP日本橋＆オンライン
		18	(土)	ガバナーエレクト渡米壮行会・地区諮問委員会・地区運営会議	ANAクラウンプラザホテル新潟
		~~19~~	~~(日)~~	~~ROTEX会議・長期派遣学生オリエンテーション・クリスマス会~~　→中止	
				IA献血キャンペーン	新潟市・上越市
		※地区事務所・高尾G事務所・髙橋GE事務所は　12/28(火)から1/4(火)まで年末年始休暇です。			
2022年(R4)高尾年度	1月	職業奉仕月間			
		15	(土)	米山記念奨学生選考会	万代シルバーホテル
		16～20	(日～木)	国際協議会	オーランド(米国フロリダ州)
		22	(土)	高尾年度クラブ会長会	ANAクラウンプラザホテル新潟

【新入会員】

(敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
新発田	青木　勝也	2021/11/8	㈱ユアテック下越営業所	所長	電気工事業
新発田	間藤　秀一	2021/11/8	㈱マトー	代表取締役	屋根工事業
長岡東	岸　伸彦	2021/11/10	お福酒造(株)	専務取締役	醸造
新井妙高	本山　大輔	2021/11/10	岡三にいがた証券(株)	新井支店　支店長	証券業

Rotary
Region 1 & 2 & 3
コーディネーター
NEWS
2021年12月号　No.1
発行：Region 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター

「ARCのつぶやき」

令和3年も残り僅かになりました。今年もコロナコロナで明け暮れてしまいました。10月に入り、感染者数が減少を続け、最近は人の往来が以前の日常に戻りつつあるようです。

ロータリークラブにおいても例会のスタイルが元に戻りつつあるのではないでしょうか？しかしながら飲食を伴う親睦の機会は、感染対策の中で制限を続けています。ロータリーの楽しさをどう創造するか、さらに奉仕活動をどう展開するか、それぞれのクラブでご苦労が続いています。

シェカール・メータRI会長の呼びかけ「Each One, Bring One」への対応に頭を痛めているクラブは多そうです。あるクラブは5人の退会者が出て理由を聞くと、コロナによる経済的事情での退会は1名で、残りの会員はロータリーの活動が減少したことによる不満だったそうです。 ロータリーの魅力について改めて考えさせられます。

「メダカはとかく群れたがる」と言います。日本人は「孤高」を重んじるところがあります。コロナ禍で人の交流機会が減少し、「孤高」は増えたと思いますが、ストレスがたまり精神的に病む人、40, 50代の男性でも更年期症が増えていると聞きます。寿命を縮める最大の要因は「孤独」であるという研究があります。「孤高」が「孤独」にならないか心配です。

ロータリーはその点多種多様な職業人、専門職の会員が集まり、相談が出来たり、アイデア、ヒントを貰えます。特に若い会員にとって、仕事や人生の悩み解消に効果絶大です。何でも話せる仲間ができることはロータリーの最大の魅力ではないでしょうか？

2690地区のクラブで今年度58名から66名へと8名の増強に成功したクラブがあります。男女4名ずつですべて若い世代です。将来的に衛星クラブ化する予定で、例会を別開催してるとのことです。メンバーは会員の2世が中心で、親とは同じクラブには入らないというニーズに応えています。

会員維持にそれぞれ工夫をされていると思います。入会して間がない会員や年配会員へのフォローに気を配る必要があります。「孤独感」の解消にロータリー活動を活かしていきたいものです。

第3地域　ロータリーコーディネーター補佐　庄司　尚史（境港RC）

Rotary Region 1 & 2 & 3

コーディネーター NEWS

2021年12月号　No.2

発行：Region 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター

ロータリーの公共イメージの重要性について

ロータリーを発展させるためには、ロータリーが世界や地域社会の変化に適応し、必要とされる団体として変化していかなければなりません。

そのためにも、将来を見据えたビジョンが必要であり、組織を強化し、ロータリーの基本理念を達成するための戦略計画が重要となりました。はじめに組織を強化するための3つの優先項目が決められ、その一つが「公共イメージと認知度の向上」でした。他は「クラブのサポートと強化」、「人道的奉仕の重点化と増加」であったことはご存じの通りです。即ち、この3つは組織を強化するために関連があり連携をすることによって会員基盤向上につながることになります。

また、クラブは「クラブ管理運営委員会」、「会員増強委員会」、「公共イメージ委員会」、「ロータリー財団委員会」、および「奉仕プロジェクト委員会」の設置が推奨されるようになりました。2017年度からは、「世界を変える行動人」キャンペーンが始まりました。2019年から優先項目は新たに4つの優先事項に変わり、「より大きなインパクトをもたらす」、「参加者の基盤を広げる」、「参加者の積極的なかかわりを促す」、「適応力を高める」と行動計画を推進するようになりました。

公共イメージ委員会の役割は、会員がロータリーやクラブについてどう語るかによって、ロータリーとその活動や基本理念に対する一般の人びとの認識が形づくられます。確固たる公共イメージが築かれれば、地域社会や世界の課題に果敢に取り組む「行動人」としてのロータリアンの姿は、全世界一貫とした姿で、地域社会に知ってもらえるようになるでしょう。

「ロータリーは、さまざまな国や文化、職業のリーダーのネットワークであり、交流を通じてアイディアを広げ、世界中の地域社会で行動をしています」この言葉は、私たちが考えているロータリーを表しているロータリーのエッセンスです。

ロータリーの公共イメージとは、「私たち自身がどう考えるか」だけでなく、「外部の人びとがロータリーについてどう感じるか」を含みます。

「ロータリー」という名を知ってもらうことはもちろん大切ですが、それだけでは十分ではありません。ロータリーの活動とそのインパクトを理解してもらってはじめて、参加への関心が生まれるからです。そのためには、ロータリーについてどう伝えるかがカギとなります。公共イメージを好ましいものにすることは、なぜ必要なのでしょうか。それは、ロータリーが認知されていても、必ずしもロータリーへの関心や参加に結びつくわけではないからです。

ロータリーでは、各々の会員がブランドの推進者となります。ロータリーを知らない人の認識と理解を深めることができるのは、ロータリーを既に経験している会員をおいてほかにありません。地元市民がロータリーに対して抱く印象は、クラブが地域社会とどう関わるかが大きく影響します。

コロナ禍の中で、暗いニュースがメディアにおいて氾濫する時代だからこそ、それぞれの地域社会で問題解決に取り組み、行動を通じて変化をもたらしているロータリー会員の姿を伝えることが重要なのです。10月24日の「世界ポリオデー」の活動は地域社会に大きなインパクトを与えたと思います。

2750地区主催「世界ポリオデー」トレインジャックプロジェクトの様子をYouTubeでご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=8iW9aQMJTME

第3地域　ロータリー公共イメージコーディネーター　山下　皓三（鹿児島西RC）

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース

ハイライトよねやま

Vol.260
2021年11月12日
発行

1. 2022学年度奨学金申込み状況

10月15日に締め切りを迎えた2022学年度のロータリー米山記念奨学金（学部・修士・博士／地区奨励）には、指定校563校（地区を超えた指定校の重複含む。前年度576校）から1,298人（1,427人）が推薦されました。

大幅な減少ではないものの、新型コロナウイルスの影響により依然として海外からオンラインで授業を受けている学生が多く、申し込みが0人の指定校や、地区が指定した人数に満たない推薦者数しか出せない指定校も出てきています。

被推薦者の国籍・地域は、中国54.2%（55.9%）、ベトナム13.8%（11.1%）、韓国8.8%（8.8%）、マレーシア3.5%（3.4%）、次いでインドネシア、ネパールの順となっています。

課程別の応募状況は、博士課程20.5%（20.4%）、修士課程33.3%（36.6%）、学部課程43.1%（41.1%）となっており、大学院在籍者の応募が年々減少傾向にあります。なお、大学以外の教育機関を対象とする「地区奨励奨学金」には、9地区15校から計29人の応募がありました。

2. バーチャルツアーで広島を学ぶ

10月30日、第2750地区（東京都）米山記念奨学委員会が「広島バーチャル研修旅行」を開催し、地区内の米山奨学生ら約50人が参加しました。

同地区では毎年、奨学生を対象とする日本文化体験旅行を実施していますが、今年は新型コロナウイルスの影響を鑑み、オンラインでのツアー開催となりました。

当日は、参加者の自宅に届けられた広島銘菓を味わいながら折り鶴を折り、プロのガイドによる案内のもと、原爆ドーム・平和記念公園・宮島など、あたかも本当にバスで広島を巡っているかのような没入感でした。特に、第2710地区の諏訪昭登パストガバナーの講話は、自身の被爆体験や戦争の悲惨さ、そして、ロータリーが提唱する国際理解と世界平和、さらに、米山記念奨学事業の意義を語る感動的なもので、多くの参加者が真剣に耳を傾けて聞き入りました。

諏訪パストガバナーの講話

ツアーを終えた奨学生からは、「歴史教育は国によって異なるが、母国を離れて日本にいる私が歴史を正しく認識・理解し、友好関係を築くための懸け橋になることが重要だと感じた」、「帰国したら日本語教師として中国の子どもたちに自分が感じた真の日本を伝え、海の向こうに世界平和に向けて努力している方々が大勢いることを伝えたい」といった声が寄せられました。

バスの車内さながらのバーチャルツアー（宮崎地区米山奨学委員長）

記念写真

3. 寄付金速報　― 米山月間のご寄付に感謝！ ―

10 月までの寄付金は前年同期と比べて 5.8%減（普通寄付金:1.2%減、特別寄付金:9.0%減）、約 3,100 万円の減少となりました。

依然として前年割れが続いているものの、10 月単月としては、大変多くのご寄付をいただいた昨年に迫る 1 億 6,300 万円となっており、ご協力いただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。例会が再開され、また米山月間ということもあり、寄付状況は徐々に好転している様子です。今年も残り 2 ヵ月を切りました。今後とも引き続きご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

4. 子どもと一緒に収穫体験　― 2770 地区 ―

第 2770 地区（埼玉県南東部）では 11 月 4 日、有志の米山奨学生・学友らがこども園の芋掘り行事を手伝いました。

同園では新型コロナウイルスの影響で父母たちへ行事補助を依頼することができず、先生方の負担が増えていました。そうした中、米山奨学生らが畑までの道のりを付き添い、子どもたちの安全を見守ったり、園児が掘りやすいよう畑の土をほぐすなどサポート。

平日開催のため、参加者数は限られたものの、奨学生からは「こんなに素晴らしい体験をさせていただいて嬉しい」、「また子どもたちに会いに行きたい」といった声が寄せられました。また、子どもたちも、「昨日のお芋掘りは楽しかった」、「お兄さんたちと掘ったお芋おいしかったよ！」と、口々に話していたということです。

同地区米山記念奨学部門委員長の藤嶋剛史氏は、「今年もさまざまな行事が中止になるなか、屋外で開催できる行事を開催できてよかった」とし、今後も感染状況を注視しながら徐々に交流を再開したいと話しており、来年 1 月には初の試みとして、書き初め会を開催予定だとのことです。

畑主のご厚意で奨学生も大根掘り

子どもたちをサポートする奨学生

もうすぐ締切

普通寄付金 申告用領収書の申請は 11 月末まで！

普通寄付金分の確定申告用領収証の申請期限は 11 月 30 日です。当会ホームページのメニュー、寄付金について → 「普通寄付金：申告用領収書の申請はこちら」からお手続きください。
特別寄付金については来年 1 月下旬、自動的にクラブ経由で送付されますので申請はご不要です。

海外米山学友会総会情報

◆韓国◆ 2021 年 11 月 20 日（土）16:00～ Zoom にて開催（韓国学友会支援日本人奨学生の通訳有）
◆台湾◆ 2021 年 12 月 4 日（土）17:30～21:00 大直典華會館仙履奇緣廳 大会参加費 NT＄1,500

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
〒105-0011　東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 3F
Tel：03-3434-8681　Fax：03-3578-8281
E-mail：highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL：http://www.rotary-yoneyama.or.jp/
編集担当：野津（のづ）・峯（みね）